

2019

2-3月

はしかけニューズレター

2018年度 第6号 通巻145号

2019年(平成31年)2月1日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 下松・八尋・大塚・大槻・楊)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

(注意) 平成30年11月よりHPアドレスが変更になっています。

～ 目次 ～

1. 2019年度 登録更新の手続き等について

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
- (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
- (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 湖(こ)をつなぐ会 (10) ザ! ディスカバはしかけ
- (11) 里山の会 (12) 植物観察の会 (13) たんさいぼうの会 (14) 田んぼの生き物調査グループ
- (15) タンポポ調査はしかけ (16) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
- (18) びわたん (19) ほねほねくらぶ (20) 緑のくすり箱 (21) 虫架け (22) 森人 (23) 琵琶湖梁山泊
- (24) サロン de 湖流 (25) 水と暮らし研究会

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数 ... 387人
 グループ数 25 グループ
 (2019年2月1日現在)

1. 2019年度 登録更新の手続き等について

(1) 2019年度 はしかけ制度会員登録の更新手続きについて

年度末が近づいてまいりました。2019年度も継続して、はしかけ活動をされる方は更新手続きが必要です。はしかけ会員の皆様には別途案内をお送りいたしますが、更新受付票の提出 (FAX、メール添付など) をお願いします。なお、18歳未満単独での登録には、保護者の同意が必要です。更新受付票の裏面に必要事項をご記入ください。

また、ボランティア活動保険料510円の納入を3月20日までをお願いします。ボランティア活動保険料の納入方法は、①2018年度第3回はしかけ登録講座の日(3月10日)に実施する更新手続き受付での現金納入(現金納入集中受付日は別途もう一日設ける予定です。更新手続き書類郵送時にお知らせします)、②郵便振替口座(00970-8-109479 琵琶湖博物館はしかけ制度)宛に振り込み(手数料別)、または③各グループ単位でとりまとめ、担当学芸員を通じて納入する方法があります。上記の方法以外での、博物館事務室で、個別での現金納入は受付けておりませんので、ご留意下さい。はしかけ以外の活動団体ですでにボランティア保険に加入されている方は不要です。なお、登録時点で10歳未満の方についてはボランティア保険の加入が受けられないため、別途、各自での保険契約をお願いします。

(2) 2018年度 第3回はしかけ登録講座

はしかけ登録講座の第3回を2019年3月10日(日)に開催します。各グループの代表の方には、活動紹介をお願いしております(約2分間の活動紹介と、終了後の質問に対する回答。グループ代表者へは2月中旬頃に、別途メールで連絡いたします)。場所: 琵琶湖博物館セミナー室 受付: 13:00～ 開始: 13:30～

(3) はしかけ新グループの発足について

昨年末より、「水と暮らし研究会」さんがはしかけ新グループとして発足しました。今号より、ニューズレターにも投稿頂いていますので、会員の皆様には、お見知りおき頂きますようお願いいたします。 (下松 孝秀)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 28名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松田征也

【活動報告】

■ 12月11日(火) 日本水環境学会関西支部 第13回社会・文化賞受賞講演、表彰式

場所: 大阪府立男女共同参画・青少年センター 参加者2名

このたびうおの会は、水環境学会関西支部より、第13回「社会・文化賞」を頂きました!歴代の会長、運営委員、全ての会員の皆様による、地道な活動の積み重ね、データ収集が評価されての受賞だと思います。12月11日の受賞講演では、これまでの会の歩み、出版された成果物のこと、毎月の活動のことなどを紹介しました。これを励みに今後も活動を続けて行きましょう。(報告:中尾博行)

■ 12月16日(日) 第140回定例調査 場所: 琵琶湖博物館周辺の小河川 参加者: 26名

今年最後の定例調査となりました。気温3℃くらいと寒い中、26名もの参加者がありました。年齢層も小中高生などの若者からベテランまでそろいました。

まず中尾会長から、「日本水環境学会関西支部 第13回社会・文化賞」受賞の報告がありました。12月11日に大阪で行われた授賞式に中尾会長と高田副会長が参加し、表彰状と盾をいただいてきたこと、受賞講演でうおの会の活動を紹介してきたことなどが紹介されました。続いてこの件のプレス発表資料とするため、胴長・たも網姿で湖岸にて参加者の皆さんで記念撮影をしました。

調査は琵琶湖周辺で実施し、合計4班に分かれて、街中や田んぼ地帯の小河川、水路を調査しました。調査範囲北端にあたる法竜川は工業排水のせいで水温19℃以上ととても温かく、外来魚のジルテラピア、カダヤシも確認されました。他の班では、おなじみのオイカワやヌマムツ、ヨシノボリ類、カマツカ、タモロコ、フナ類、ミナミメダカなど合計25種が確認されました。寒い中の調査でしたが、各班ともたくさんの魚種が確認できました。(報告:水戸基博)

■ 大変悲しいお知らせです。前会長の村上さんが、昨年末ご逝去されました。多大なご功績に敬意を表し、心からご冥福をお祈りいたします。

【活動予定】

■ 冬季は勉強会、総会等を予定しています。年間予定はうおの会のウェブサイトをご覧ください。



受賞記念撮影 (草津市)



調査風景 (草津市)



ウキゴリ



フナ類

【活動報告】

■ 12月15日(土) 場所：甲賀市水口町 参加者：2名

甲賀市水口町新城の観音堂で弘法大師像と厨子を発見

いわがみの歴史探訪(岩上自治振興会の歴史講座、聴講者5名)を開催。新城に鎮座する八幡神社と境内にある観音堂、行者堂の歴史講座を実施。八幡神社の祭神は武家から武運の神として崇敬を集めた誉田別尊(応神天皇)と大正時代に合祀された大山祇命、火之加具土神である。観音堂には僧最澄が創立したと伝わる天水寺(ちょうすいじ)の本尊の馬頭観世音菩薩が祀られている。この建物は絵馬堂とも称されていて江戸時代から奉納された多くの絵馬が掛けられている。桐と菊の紋のある厨子には十一面観音立像も安置されている。また、観音堂は甲賀准四国86番札所となっていたが大正3年に今郷浄土寺に移転された。今回、ここを管理する八幡神社宮守の許可を得て甲賀准四国の弘法大師像と厨子及び掛額の調査も合わせて実施し、設立当時の弘法大師像と厨子を発見した。



観音堂で発見した弘法大師像と厨子、裏面には発起人の名前も書かれていた。



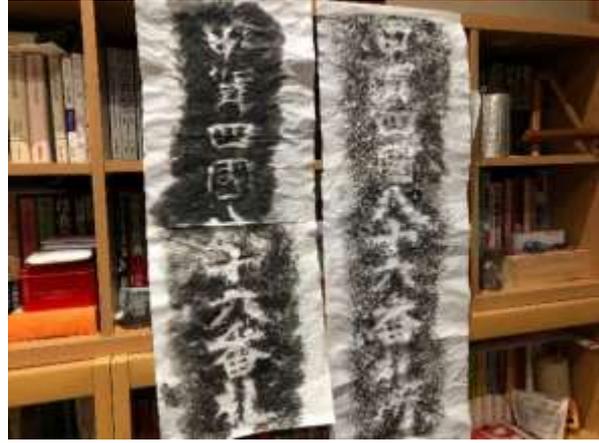
桐と菊の紋のある厨子と十一面観音立像、堂内に掛けられた絵馬。

■ 12月22日(土) 場所：甲賀市水口町 参加者：2名

甲賀准四国札所石碑の拓本採集(1)

「近江 巡礼の歴史勉強会」の新たな取り組みとして拓本の採集を開始。住職の了解を得てまずは、甲賀准四国86番札所の今郷浄土寺からスタート。使用する紙も習字用半紙から中国書画宣紙に変更するなどの改善をしながら進めた。

中国書画宣紙を使用すると一枚で全体を写し取ることができたが、紙の強度に問題があったために一部に破れが生じた。また、水の噴霧方法にも改善が必要であることが分かった。



習字用半紙を繋いで全体の拓本を採る、3枚を繋いで全体を写す。



■ 12月25日（火）場所：甲賀市水口町 参加者：2名

甲賀准四国札所石碑の拓本採集（2）

用紙の改善策として明治時代の和紙で試行したところ強度も向上し破れは生じなかった。

今後は墨やその他の道具類も検討が必要である。

【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八ヵ所」に関連した調査活動として、一ヵ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「甲賀准四国八十八ヵ所」関係者や巡礼に関する専門家との第二回目勉強会を開催に向けた準備を進める。
- ・石碑の現存する53ヶ寺の拓本採集を進める。

（福野憲二）

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数 (のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 篠原徹 榎永一宏

【活動報告】

■ 11月25日(日) 場所: 水が浜(近江八幡市) 参加者: 2名

それぞれ、お気に入りの場所でスケッチを行う。
入江のアヒルの数が昨年より増えていてにぎやかでした。

■ 12月23日(日) 場所: 琵琶湖博物館(草津市) 参加者: 5名

2019年の活動についてミーティング。

※2019年1月27日(日)の活動につきましては、次回ご報告の予定です。

【活動予定】

■ 2月24日(日)

琵琶湖博物館・10時30分正面玄関付近集合。
館内でスケッチを行います。

■ 3月24日(日)

水口中部コミュニティーセンター(甲賀市) 付近でスケッチを行います。
※集合場所と時間については後日連絡させていただきます。

※初めて参加される方は080-5709-8634(金山)までご連絡ください。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数 (のべ) 15名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】

織姫の会

■ 11月28日(水) 参加者: 4名

わくわく探検隊「綿に触れてみよう」の準備。スピンドルを整理し、綿繰機、糸車の調整をしました。

■ 12月8日(土) わくわく探検隊「綿に触れてみよう」協力 参加者: 4名

わくわく探検隊「綿に触れてみよう」に協力しました。昨年より人数を減らしたせいか、つまるところがなく順調にすすみ、作った糸を記念に持ち帰ってもらいました。来年は最初から糸持ち帰り用の紙を準備したほうがよいことがわかりました。

■ 12月23日(日) 大掃除 参加者: 3名

いつも使わせてもらっている和室を中心に大掃除しました。地機の周辺もホコリだらけだったので、雑巾拭きしてきれいになりました。また和室の窓を数年ぶりに掃除しました。虫やクモの巣だらけだったので、すっきりきれいになりました。

■ 1月9日(水) 参加者: 4名

途中になっていた地機の機上げ作業を始めました。まず、手前のアゼを箆の向こう側へ移動(アゼ返し)しました。糸が手紡ぎのせいか、2本ほど切れてしまったのでつなぎなおし、いくつか間違いがあったので、修正しました。次回は綜統(そうこう)製作となります。



12月8日びわたん「綿に触れてみよう」

【活動予定】

■ 織姫の会

1月26日(土)、2月6日(水)、23日(土)、3月6日(水)、23日(土)
(日程が変更になっているので、要注意)

(辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口保文

【活動報告】

■ 12月9日(土) 参加者: 16名

2018年最後の野外調査として里口総括学芸員の指導で古琵琶湖層などの調査を湖南市の野洲川・横田橋近傍で実施した。当日はこの冬最初の寒い日であり、早く終わることも考えられたが、皆さんの熱気で予定通りの調査をした。

①調査のポイント

参加者は16名と多く、また、各人の調査における視点も多様なので、各ポイントで最初に全体的な説明を里口さんからして頂き、その後は自主的な観察をした。

②調査結果の概要

- A. 調査領域の中央に断層が存在する。それを境にして地層の傾斜は逆転している。断層もよく見える。断層の基礎を勉強する上でも好適な場所である。
- B. 今回、案内頂いた場所は地層が明瞭に見える場所であったので、動物の足跡化石を上からと縦方向からと立体的に観察できた。
- C. この場所は象などの足跡化石や木の化石の場所として著名な所である。さらに、貝の化石もあった。
- D. 現場は野洲川の河川敷にある。そこには色々な岩が点在している。岩の調査にも面白いとは思った。ただ、露頭でも岩の名称を特定するのは難しい。河川の岩の名称をあてるのは並大抵なことではないと改めて感じた。
- E. 今後の対応
3月の早い時期の草が生えず、山の雪解け水で増水する前に、調査するのも面白いと思う。調査のポイントは幾つもあるが、今回の調査地点で古琵琶湖層は南に傾斜していた。この傾斜はどこまで継続するのか等、色々あると思った。

【活動予定】

■ 2019年1月の活動(予定)

・2019年1月20(日) 10:00 - 15:30 琵琶湖博物館で自主勉強会を行います。

(1)1部 10:00 - 12:00 大人のディスカバリー

私の拾った採取した自慢の石の自慢 & 私の拾った採取した得体のしれない石は何物なのかお教えてください、どうしたら分かるのかも?

5分ほどで説明頂き、10分ほど議論したい。15分/1石

石の持参と自慢等をしたい人は提案ください。

(2)2部 13:00 - 15:30 第1実習室 整理整頓も含め16:00には終了。

里口さんの書かれた書籍 『琵琶湖はいつできた-地層が伝える過去の環境-』に関する講和

■ 2月予定

・自主勉強会を行います。

詳細、検討中。



(6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾滋史

【活動報告】

■ 12月15日(土) 9:30~12:00 撮影会: 博物館周辺の冬 場所: 博物館周辺 参加者: 9名

冬の博物館周辺の自然を記録するため、樹冠トレイルやからすま半島周辺を散策しながら撮影しました。樹冠トレイルから見える冬の比良山系、そして琵琶湖にやってきた水鳥など様々な風景や生き物を撮影することができました。

■ 1月19日(土) 9:30~12:00 大橋コレクションの整理 場所: 博物館会議室 参加者: 6名

大橋コレクションの整理作業を行いました。今回は昭和10年~20年代の写真も多く、今まで以上に貴重なかつての滋賀の風景、状況がわかる写真に、メンバーも興味深々でした。今回は500枚程度の写真をチェックしました。

【活動予定】

■ 2月16日(土) 博物館入口 9:30 集合

博物館周辺の冬の風景や生き物を撮影します。暖かい服装でお越しください!!



(7) くらしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 26名】

グループ代表アドレス: hashi-hakutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川千代美

【活動報告】

■ 11月29日(木) 13:00~ 12月1日の活動の準備 場所: 琵琶湖博物館 地学研究室 参加者: 3名

活動内容: 12月1日の活動に向け、資料の水つけ、道具類の準備などを行いました。

■ 12月1日(土) 13:30~16:30 足跡化石についての勉強会・微小な化石を探す作業(多賀町発掘試料)

場所: 琵琶湖博物館 実習室1 参加者: 15名

活動内容: 足跡化石研究の第一人者の、滋賀県足跡化石研究会の岡村喜明先生に講師をお願いし、岡村先生が採取してこられた足跡化石の凸型剥ぎ取り標本や、足跡化石の産出状況をトレースした透明ビニールシートを観察しながら、地面についた模様が何なのか議論しました。

岡村先生の講義の後、短い時間でしたが、集中して多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業も行いました。初めて作業するメンバーもいたのですが、皆で教え合いながら作業を進めました。ヒシと思われる植物の化石や、咽頭歯の化石と思われるものなどが採取できました。



〔足跡化石の産出状況のトレースを観察中〕



〔足跡化石の凸型剥ぎ取り標本を前にディスカッション〕



〔足跡化石の勉強会の参加者〕

■ 1月12日(土) 13:30~16:00 微小な化石の標本の同定・整理作業 (多賀町発掘資料)

場所：琵琶湖博物館 1F おとなのディスカバリー内 オープンラボ 参加者：8名

活動内容：2017年11月より取り組んできた、多賀の発掘現場の土の小割り作業などで採取した、微小な化石の標本の同定作業(採取した化石が何の化石なのか調べる作業)を行いました。仮保存しておいた微小な化石をシャーレに取り出し、実体顕微鏡で観察しました。おとなのディスカバリー内のオープンラボにある実体顕微鏡や、その実体顕微鏡に連動したモニターも使い、採取した化石が何の化石なのか図鑑などで調べたり、化石の特徴をスケッチしたりしながら、皆で検討し同定作業を進めました。同定ができた標本から順に保存作業を行い、標本番号などを書いたラベルを貼り、目録に書き込みました(計8件)。植物のトゲや種子などの化石を同定することができました。



〔オープンラボでの微小な化石の同定作業〕

【活動予定】

■ 日時：2月11日(月) 13:30~16:00 微小な化石の標本の同定・整理作業 (多賀町発掘資料)

場所：琵琶湖博物館 1F おとなのディスカバリー内 オープンラボ



(9) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林竜馬

【活動報告】

活動なし。

【活動予定】

■ 3月10日(日) 13:00 実習室1集合 はしかけ登録講座
紙芝居上演



(10) ザ! ディスカバはしかけ

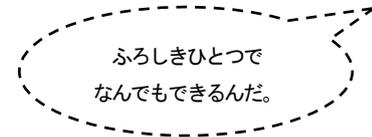
【活動報告日の活動会員数(のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中村久美子、妹尾裕介

ことは雪が積もるでしょうか。ザ! ディスカバはしかけは、冬のイベント盛りだくさんです。お手玉は毎年、針と糸でじっくり集中して作る子どもたちに驚きます。今年は幼稚園の年長さんが上手に一人で縫っていました!

2月には、新しいプログラム「ふろしき」をつかって実施します。スイカや本やお酒まで運べてしまう何でも入る魔法のカバンです。どうやって包めば上手に運べるか、やってみましょう。



【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
ディスカバ	12月22日(土)	はたきをつくろう	(補助) 今年もかわいいはたきができて、台所もお掃除できました。 3名
はしかけ	1月6日(土)	お手玉作り	大好評で満員御礼でした。今年リニューアルしておばあちゃんの台所で実施することができました。 参加者13名、はしかけ4名

～メンバーからのメッセージ～Vol. 47

お手玉イベント皆様のご協力ありがとうございました。

今年はおばあちゃんの台所と参加者の人数がうまいこといったと思います。様子を見ているとそばにいたお母さんがほとんどやってしまった、なんてこともあり、そんなときの対処法を考えなくちゃ…と思っています。

針と糸を持つ機会をつくること大切だなあ。

柳原

～メンバーからのメッセージ～Vol. 48

とても頑張ってお手玉作りに挑戦している子供たちの姿が印象的でした。またお家でも作ってみる! という声も聞かれました。お手玉の中身として、小豆を入れる場合、虫対策として、私はレンジで加熱しています。今回はそのこともお伝え出来たので良かったです。

吉野

【今後の活動予定】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ	2月11日(月祝) 13:30-、14:30-	ふろしきでつつもう(仮)	ふろしきは、色んなものを運ぶカバンになります。どうやって包むか包んでみましょう。(準備は10時集合)

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい!」などアイデア・提案があれば、お気軽に中村・妹尾まで声をかけてください。いつでもお待ちしております!

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)していきましょう!



グループ代表アドレス: hashi-satoyama @biwahaku.jp (登録会員数: 36名) グループ担当職員: 山本綾美

【活動報告】

■ 1月12日(土) 里山体験教室 下見 参加者: 11名

はしかけ里山の会の会員は、琵琶湖博物館と共催で里山体験教室の運営を行うことになっています。このことで、野外活動になれたスタッフが増え、野外に不慣れな参加者を比較的大人数受け入れても、安全に野外体験してもらうことが出来ます。



年4回開催する里山体験教室では、毎回、一週間前に下見を行い、安全の確認、自然の状態、活動内容の打ち合わせなどを行います。会員にとってはなじみ深い森ですが、安全で、楽しい体験教室にするために毎回欠かさず行っている下見です。日付けを見てもらえばわかるとおり、まだ小正月も開けていないこの時期、ただ下見をするだけでは、楽しくない! という事で、お昼ご飯に焚火を起して、芋煮会をしました。焚火をおこすのもなれたもの、美味しい物作るのもお手の物、具だくさんの芋煮で温まって気持ちもほっこり、本番を楽しみにして帰りました。



■ 1月20日(日) 里山体験教室 本番は雨天のため中止 かわって 自主活動実施 参加者: 21名

悲しいことに、里山体験教室本番は、真冬の雨。また、前日にインフルエンザによるキャンセルが3件も入ったので、残念でしたが里山体験教室は中止にさせていただきました。

しかし! 里山の会メンバーは、野外活動マスターぞろい、みんな強者です。体験教室が中止の時も、里山の会の自主活動は実施するという事が、会の慣習として決まっています。雨が降ってもなんのその、濡れた薪を乾かしながらどんどん火を焚いて参加者にふるまう予定だった汁鍋を作って、みんなで食べました。寒い時の汁物は最高です。鍋の後は焚き火スイーツ、焼きマシュマロと焼き芋って思うでしょ? アルミホイルの中は、焼きバナナチョコなんですよ一笑。これまた体験教室で使うはずだった竹ケーキの具のバナナを变身させて、美味しくいただきました。最後はしっかりきっちり火の始末をします。雨の中の火のつけ方や、焚き火の最後の始末の仕方、子ども達が自然に学んでくれていることと思います。



【活動予定】

■ 3月2日(土) キノコ植菌体験&早春山菜試食&里山の会総会



本格的な冬将軍の到来となり、暖冬とはいえ、私の住む鈴鹿山系北部は、ほぼ真っ白。特に北に見える伊吹山は、麓まで雪に覆われ、絶景です。

【活動報告】

■ 12月2日(日) 「くっつきむし(植物の種)のくっつく仕組みをみよう」 場所: オープンラボ 参加者: 4名

この日は、季節的には少し遅くなったのですが、探し当ててきてもらった“くっつきむし”といわれる草の種を観察。

- ・キンミズヒキ、オオオナモミは、先がかぎ状で、ひっかける形。
 - ・チヂミザサは、のぎ状の部分にべとべとする液があり、粘着テープの様にくっつく。
花の時期(10月)に拡大して観察したが、この滴状の液は見られなかった。
 - ・コセンダングサの針状の部分には、細かい返しがついていて、刺さる形。 など。
- その他アレチヌスビトハギ、ヤエムグラなども観察。

また、持ち寄ったわからない植物を調べました。

■ 1月13日(日) 晴天に恵まれ「冬芽を見よう」の予定を変更し、持ち寄ったカエデを見ながら学習会 参加者: 6名 (同定のポイントは石田さんにお世話になりました)

「お天気がいいし、外へ・・・」と言いながら、カエデ(4月と6月に持ち寄った花、葉、種の観察をしてきた)の見分け方の疑問が話題になり、持ち寄ったカエデの葉やフィールドレポーター用の標本を見せて頂き、頭の中身は完全にカエデモードへ・・・。そこへ、お忙しい中を快く解説を引き受けてくださった石田さんが来てくださいました。



- ・葉の裏を見る →裏が白い、白くない →葉脈の付け根などに毛がある、ない
 - ・葉柄の長さ →ハウチワ、コハウチワ
 - ・鋸歯の多さ、細かさ →イタヤの仲間、オオモミジ
 - ・切れ込みの数は変異が多く、参考に見る程度。 同じ木の中でも違う。特に萌芽したものや幼木に注意。 など。
- 一見すると到底カエデには見えないもの(ヒトツバカエデ、メグスリノキ、チドリノキ)やカエデの仲間と思ってしまうもの(アメリカフウ、私の場合はイイギリ)などもあり、四季を通して観察していくことと、種子を見ることで確実に区別ができることを改めて確認しました。

今年は、4月の初めにカエデの花の実物を色々見たい!と思いました。

1つのテーマや興味を持つことで、見たいもの、行きたい場所が次々と出てくることも、この会での楽しみかなあと感じています。

【活動予定】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合や都合がつかない場合は、変更となることもあります。外部で行う観察会は、年に数回、はしかけの皆さんにも呼びかけを行っています。このニューズレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。

■ 2月3日(日) お休み

- 3月3日(日)「持ち寄ったものをみよう、被度・群度を調べてみよう」、来年度の計画
場所: 琵琶湖博物館 実習室1または2 または大人のディスカバ内ラボ
時間: 13:30~16:00

■ 4月~ 未定 (相談後、日にちを決めます)

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください (^o^)/
当日、直接、実習室へ来ていただいても結構です。



(13) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 影の会長: 大塚泰介

【活動報告】

たんさいぼうの会第58回総会を、2019年1月13日(日)14:00~16:45に、大津公民館(大津市島の関)で行いました。参加者は12名でした。個人の活動報告に続き、前回の総会(7月22日)以降に行われた「たんさいぼうの小さな旅」「日本珪藻学会研究集会」「びわ博フェスティバル」などの報告がなされました。また、琵琶湖博物館電子図鑑「珪藻」の検索用ページの更新について、吉野会員から素案が示され、具体的な方針を検討しました。次回総会は4月6日(土)の予定です。総会の前に、交流室の資料およびデータの整理を行うことになりました。

その後は新年会です。

以前に紹介した、日本海側の更新統から初めて産出した *Pseudopodosira kosugii* の報告が、まもなく論文になります。

大塚泰介・芝崎美世子・富小由紀・小滝篤夫・高原光・林竜馬・安野敏勝(2019) 京都府京丹後市の更新統の堆積環境の推定および日本海側更新統からの珪藻種 *Pseudopodosira kosugii* の初産出. 第四紀研究 58:57-63. (二重下線はたんさいぼうの会会員、下線は琵琶湖博物館職員)

すでに掲載号とページも確定し、現在、最終校正を行っているところです。

富小由紀会員の初めての主著論文多賀町四手の蒲生層(前期更新統)から産出した化石珪藻の報告は、掲載誌 *Diatom* の編集委員長が元旦付で交代したためか、ゲラの到着が予定よりも遅れています。年度内には出版できるかな?

藤前干潟(名古屋市)の珪藻については、現在、英文校閲を進めています。瀬田公園(大津市)の珪藻については、一通りの同定を終え、現在、写真の撮り足しをしています。また、瀬田公園のオオミズゴケに付着していた珪藻の単離培養を進めています。藤ヶ鳴湿原(岡山市)の珪藻も、あと少しで同定完了です。他に、愛知県の鈹質土壌湿地群などの珪藻の研究を進めています。

【活動予定】

3月までのグループとしての活動予定は、今のところありません。これまでに採集してきた珪藻試料の整理、写真撮影、同定を分担して個別に進めていきます。また、珪藻電子図鑑の検索ページの作成を進めていきます。参加ご希望の方は上記代表アドレスまでご一報ください。



(14) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木隆仁

年末年始は、強い寒波に見舞われました。田んぼのエビたちは、春の孵化に備えて、土の中でしっかりと休養しているのではないかと思います。私たちも、昨シーズンを振り返って成果を確認するとともに、次のシーズンに備えて作戦を練る時期にさしかかっています。琵琶湖地域の水田生物研究会に合わせて台湾から来日されたグライガーさんの「瀬田地域をもう一度歩いてカブトエビ類の生息状況を調査してみたい」という言葉にも、何かワクワクするようなものを感じました。

【活動報告】

琵琶湖博物館で昨年12月16日に行われた「第9回 琵琶湖地域の水田生物研究会」において

山川栄樹・田んぼの生きもの調査グループ: 循環灌漑を実施する水田地域における大型鯉脚類の生息状況の特徴

という口頭発表を行いました。田んぼの生きもの調査グループでは、2017年から2018年にかけて、滋賀県全域から選択した65の地域で3352筆の水田を調査し、生息する大型鯉脚類の種と生息密度、環境要因としての灌漑様式などに関する基礎的なデータを収集しました。広い範囲にわたる現地調査や、採集した大量のサンプルに対する同定作業には、大変な労力がかかります。しかし、今回の発表テーマのように、ある特別な環境要因による影響を統計的に評価する際には、これらの基礎的なデータが比較検討のための貴重な情報になります。実際、気候条件や土壌などの環境要因が類似する県内の他地域に比べて、循環灌漑地域ではトゲカイエビやカイエビの生息率が有意に高いことがわかりました。これは、循環灌漑によって耐久卵や幼生が水田域全体に広がるのではないかとという仮説を裏付ける結果です。一方、ホウネンエビは、循環灌漑を実施する一部地域において、環境要因が類似する他地域に比べて生息率が有意に低いという結果になりました。これは、循環灌漑の影響として説明することは困難です。生息密度と生息率の関係にヒントがあるような気もしますが、その理由を明らかにするためには、一つの地域で複数日調査するなど、より詳細な調査が必要かもしれません。いずれにせよ、会員の皆様の努力の結晶である滋賀県全域の基礎的なデータをさらに生かすことができるような新しい調査・研究テーマを、今後も探っていきたいと考えています。なお、発表資料は、前号のニューズレターでも紹介したインターネット上の会員専用共有フォルダに保存しています。

【活動予定】

例年通り、3月に総会を行います。詳細な日程は調整中であり、決定次第、メールで連絡いたします。(山川 栄樹)



(15) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷美奈子

<「タンポポ調査・西日本2020」が3月から始まります!>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度2年にわたって実施される広域調査ですが、ついに来る3月から「タンポポ調査・西日本2020」の調査が始まります。琵琶湖博物館は、前回に引き続いて滋賀県の実行委員会を引き受けることになりました。いよいよ、タンポポ調査はしかけグループの本領発揮です。

<はしかけメンバー募集中!>

2019年3月から調査が始まります。調査期間は2019年2020年ともに3月～5月です。調査中から終了後にかけて、滋賀県のサンプルの整理をします。タンポポまみれになって、タンポポに詳しくなしましょう!興味のある方は、上記メールアドレスに連絡をくださるか、博物館で学芸員の芦谷に声をおかけください。

<「タンポポ調査・西日本2020」の調査票、2015年の調査の結果を掲載したチラシ、報告書を配布します!>

「タンポポ調査・西日本2020」の調査票の配布も2月ごろから開始します。「おとなのディスカバリー」の植物コーナー周辺に置かせてもらう予定です。

【活動報告】

2018年12月に第1回目のスタッフ会議が大阪で開かれました。当グループから直接の出席はありませんでしたが、滋賀県実行委員会からは1名出席しました。

【活動予定】

2019年3月から始まる調査に向けて、一般参加者向け、スタッフ向けの研修会と講習会があります。「タンポポ調査・西日本2020」に興味をお持ちの方は、このはしかけグループのメンバーでなくても、ぜひご参加ください。午前中は一般参加者向け、午後はスタッフ向けの内容となっています。事前申し込みは不要です。初めての方はぜひ午前中から、すでに調査に関わったことがある方は午後からの参加でも十分だと思います。琵琶湖博物館でも説明会を開きます。

不明なことは、上記アドレス、または芦谷までお問い合わせください。

●タンポポ調査・西日本2020調査説明会 (一般参加者向け)

場所: 長居公園・大阪市立自然史博物館 (大阪市東住吉区长居公園1-23)

日時: 2019年3月2日(土) 10～12時(雨天決行)

集合: 午前10時「博物館・植物園入口」(植物園には入場しません)

日程と内容: 9:30～ 受付開始

10:00～ 開会の挨拶(布谷)、連絡 など

10:10～ 調査説明会(一般向け): タンポポ調査の方法・見分け方(ひとはく・鈴木)

11:00～ 長居公園ないでタンポポウォーキング: タンポポ調査を実際にやってみる

11:30～ 質疑応答・各府県からの報告・連絡(～12:00)

●タンポポ調査実行委員会と特別講習会(スタッフ向け)

場所: 大阪市立自然史博物館 集会室

(午後より参加の方は博物館職員通用口から「タンポポ講習会参加」と申し出て入館してください)

時間: 2019年3月2日(土) 13～16時

日程: 13:00～ 開会の挨拶と趣旨説明(布谷)

13:10～14:00 第1回実行委員会

14:00～15:30 識別講習会

・調査実施要項の説明 ・外来種と在来種の識別・在来種の同定

・花粉の顕微鏡観察実習 ・データ入力方法について

15:30～16:00 質疑応答、解散

●琵琶湖博物館での調査説明会 (於: 琵琶湖博物館 実習室)

日時: 2019年4月13日(土)・20日(土) いずれも13:30～15:00



寒さにも負けず、生活実験工房と森や畑で遊ぶちこあその12月と1月の活動の報告です。

◆12月19日(水)

生活実験工房の窓から見える、黄色い実。「何だろう?取ってみよう!」と観察しました。ツルでつながって黄色と黄緑色の少し硬い実をひっぱって取って、みんなでしげしげと。キカラスウリらしいことを知って、割ってみると、中にはたくさんの種が詰まっていた。臭いをかいだり、ルーペで観察したりと、冬の自然を楽しみました。また森を探検していると、くさーい臭いが漂ってきました。なんと地面には、スッポンタケが!近づいてみると、ヌルヌルした傘。そしてそこからはさらにくさい臭いが出ています。森のキノコにもびっくりでした。バンダナおじさんが作ってくださった、かき餅揚げも食べて、元気いっぱい遊びました。

◆1月16日(水)

寒い日々が続きましたが、当日は晴れて風も少ない暖かでした。昨年にイモを収穫した畑を歩くと、ミミズがいたり、古くなったヘチマがあったり、テントウムシが歩いていたり、小さな発見がいっぱいでした。また、畑の端っこの斜面で、落ち葉をそと除けてみると、なんとフキノトウの芽が出ていました。いくつか拾って、臭いをかいでみると、フキノトウのさわやかな臭いが。バンダナおじさんをお願いすると、フキ味噌にしてくださりました。ディスカバリールームでは、臭いの展示が更新でされており、モミのさわやかな臭い、カツラの甘い臭い、そしてオオサンショウウオの臭いをかいで楽しみました。お昼にはフキ味噌を食べて、春の気配を感じました。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。

<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。

【活動報告】

	実施日	タイトル	内容
12月	12月19日(水) 10:00-14:00	寒い冬、だけど森や畑には遊びと発見がいっぱい ちこあそ12月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者:メンバー4人、子ども7人、保護者5人、学生1名
1月	1月16日(水) 10:00-14:00	2019年、今年も博物館の森や自然の中で楽しみましょう ちこあそ1月	ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など 参加者:メンバー4人、子ども8人、保護者7人、学生1名

【今後の活動予定】

	実施日	タイトル	内容
2月	2月20日(水) 10:00-14:00	ちこあそ2月	※毎月おおよそ第3水曜日に行います。 ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。
3月	3月20日(水) 10:00-14:00	ちこあそ3月	※毎月おおよそ第3水曜日に行います。 ルーペでの自然観察、森の探検、工房の食体験など やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチします。

新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう!

◆12月の様子



スッポンタケを観察中。くさい臭いがするよー



キカラスウリを観察中。中から虫が出てきて、ビックリ！

◆1月の様子



古くなったへちまを振ったり、割ったりすると中から種がいっぱい出てきたー



ルーペでテントウムシを観察中



(17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚泰介

【活動報告】

■ 12月9日(日) 参加者: 7名

琵琶湖や博物館周りの水場などのプランクトン、コケの中の生きもの、キノコの胞子などを観察しました。生活実験工房の桶で採集されたミジンコをメンバーで調べたところ雄のミジンコでした。普段目にするミジンコは雌で雄のミジンコはあまり見かけません。図鑑にも描かれていないことが多く活動時間内に種類はわかりませんでした。後日メンバーと大塚学芸員が調べたところ *Oxyurella tenuicaudis* (エダヅメタマゴミジンコ、ホソオミジンコ) であることがわかりました。今回は活動中にジャイカの方々がはしかけ活動の見学にいらっしゃいました。ジャイカの方々の質問に対して小学生のメンバー2人が英語も交え堂々と対応していたのが印象的でした。



交流室での活動の様子



Oxyurella tenuicaudis の雄

■ 1月14(月・祝) 参加者: 2名

今回の活動ではそれぞれが自身の興味のあるものを観察して過ごしました。1人は西の湖、ため池、自宅前のコケを観察しました。コケからは多くのクマムシが出てきました。もう一人は博物館の収蔵標本を見せて頂いていました。今回、収蔵標本から目的のワムシを見つけることは出来なかったのですが一昔前の琵琶湖のプランクトンを見ることが出来ました。現在と昔のプランクトンの違いは話や文献で知っていましたが実際に自分の目で見ると驚きがありました。

【活動予定】

次回開催日については未定です。

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



【活動報告】

■ 12月8日(土)「綿にふれてみよう！」 参加者: 35名

今回のわくたんは、毎年この時期恒例の「綿にふれてみよう！」でした。はしかけグループ「近江はたおりの会」のみなさんにご協力を頂き、綿の種をとる「わたくり」や綿を広げる「わたうち」、そして「糸紡ぎ」をしました。生活実験工房での活動だったので、土間や和室にて昔ながらの雰囲気を感じながら味わってもらえたのではないのでしょうか。途中、生活実験工房の畑で栽培している綿の観察や、綿ができるまでの紙芝居、綿と化学繊維の顕微鏡観察を体験してもらい、様々な角度から綿にふれてもらいました。最後には「近江はたおりの会」による機織の実演を見て頂き、綿から着物(織物)になるまでの大変さを知ってもらえたのではないかと思います。



■ 1月12日(土)「お魚モビールを作ろう！」 参加者: 41名

今回のわくたんは、2016年度から実施している比較的新しいメニューの「お魚モビールを作ろう！」でした。金尾学芸員からタナゴの仲間についてのお話を聞き、みんなでタナゴをスケッチするために水族展示室へ行きました。水槽にいるタナゴの仲間の形や大きさ、色に注目して、お気に入りのスケッチをラミネートにしました。子どもたちは自分の好きな色で色を塗ったりして、とても楽しそうでした。「お魚モビール」は、タナゴのラミネート、ペットボトルで作った「魚」や「バイカルアザラシ」、「亀」などを竹ひごと釣り糸でバランス良くつるします。ゆらゆらするように作ることは難しく、家族みんなで協力して一生懸命に作りました。完成後は、ゆらゆらと動くモビールに感動し、みんな癒やされていました。このメニューは例年時間がかかっていましたが、近美の方や学生ボランティアに助けをもらい、参加者のみんなが完成させることができました。



びわたん (こぼやん)

【活動予定】

- 2月9日(土) 「樹冠トレイルを歩こう！」
- 3月9日(土) 「火起こし体験をしよう！」



【活動報告】

■ 12月1日(日) 参加者: 1名

バイカルアザラシの骨の整理やハス(魚)の解剖を行いました。

■ 12月15日(日) 参加者: 5名

テンの皮剥ぎとフナの除肉、オオバンの解剖、などを行いました。

■ 1月13日(日) 参加者: 2名

テンの解剖とフナの除肉を行いました。

右の図は、テンの解剖中に行ったスケッチなのですが、スケッチを行うと、普段解剖する時とは違う目で対象を観察することが出来、描きながら色々な事を考えます。

「中にある骨はどこにあって、どんな形をしているのだろうか？」

「この動物ではこんな形をしているけれど、他の動物ではどうだったのだろうか？」

「この場所にはいつも解剖するときに見ているあの筋肉があるはずだから・・・外から見るとこんな形に見えるのか」

「普段の動物の印象には「毛」というものが意外と大きな割合を占めているのではないかな？」…などなど、

いろいろな考えが浮かんできます。

この時、思いつくことの大半は疑問というか、自分が解らない事が気になります、

ですが自分の悪い癖で、その事について深く考えたり、調べてみようとはしないので、そのままいつの間にか忘れてしまう事になります。

せっかくこの様な活動の場に参加させていただいているので、少しでも自分の興味関心のある事について手間を惜しまず学んでいける様になりたいと思います。



▲解剖中のテンのスケッチです。(画: 西村 有巧)

【活動予定】

2月、3月の詳しい活動日は現在未定ですが、月に2回程度、土曜日・日曜日に活動を予定しております。



(20) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■ 1月9日(水) 場所: 琵琶湖博物館 実習室2 参加者: 12名

・七草スコーン作り

年が明け、おせち料理で新年を祝い、1月7日の朝に春の新菜(七草)を刻んで粥に入れ、無病息災を願って食しますが、今年も緑のくすり箱では七草スコーンを作り、七草を楽しみました。また、旬の里芋やほうれん草などを使った、体が温まるスープも作りました。

(参加者の感想)

- 無病息災を願って食べる七草粥ですが子供は喜んで食べてくれません。
七草スコーンであれば、大人も子供も美味しく頂け栄養も愛情も満点だと思いました。
- 野菜を入れる発想が体も元気になるのでいいなあと思いました。
甘酒を入れたり、いろいろなパターンが考えられて子供さんとも楽しく出来そうですね。
- 色んなスコーンの味が楽しめました。
- カブラの食感が良くて、口当たりもふんわり優しくまた家で作ろうとおもいました。



【活動予定】

2月10日(日) 場所: 実習室2 ハーブを使ったM&P ソープ作り

3月(日程は未定) 場所: 未定 総会



(21) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋克郎

【活動報告】

■ 12月15日(土) 10時~16時 冬の虫さがしおよび蝶の採卵・採卵

場所: 伊吹山1合目および山麓周辺 参加者: 8名

オオムラサキ、ゴマダラチョウの幼虫を確認できました。

オオムラサキ	10頭
ゴマダラチョウ	36頭



【活動予定】

今後、1か月に1回程度の野外調査、2か月に1回程度の室内勉強会を予定しております。

野外調査は、昆虫を中心に滋賀県内の分布調査を予定、夏季には夜間の灯火採集も予定しています。

ご興味をお持ちの方は、グループ代表アドレスまでご連絡ください。

(文責: 梶田)



【活動報告】

■ 12月8日(土) 13:30~15:30 動物観察用自動カメラ設置と屋外展示ガイド冊子の改定 場所: 研究交流室

参加者: (会員) 5名 (博物館職員) 林、中村

内容: ①自動カメラ関係・・・樹冠トレイルオープンに伴い縄文・弥生の森には多くの人が入るようになり以前と同じ場所には設置できないのでとりあえずその近くに2台、落葉広葉樹の森は以前と同じ場所に1台、計3台を設置した。

②屋外展示ガイド冊子の改定・・・樹冠トレイルオープンに合わせて作成したガイド冊子の在庫切れに伴い太古の森の樹木を追加するなどの改定を行うための検討を開始した。



■ 12月22日(土) 13:30~16:40 動物観察用自動カメラ確認と屋外展示ガイド冊子の改定 場所: 生活実験工房

参加者: (会員) 7名 (博物館職員) 林

内容: ①自動カメラ関係・・・キジバト、イタチ、ネコが確認されたが今のところ以前と比べ種類が少ない。引き続き調査する。

②屋外展示ガイド冊子の改定・・・目次、マップ、説明文、昆虫の写真の一部を見直す。太古の森関係は21種類の樹木を選定し葉、花、果実、化石の写真を中心にレイアウトする。2019年2月をめどに検討することにした。

■ 1月12日(土) 13:30~15:30 動物観察用自動カメラ確認と屋外展示ガイド冊子の改定 場所: 生活実験工房

参加者: (会員) 7名 (博物館職員) 林

内容: ①自動カメラ関係・・・撮影枚数が少ないため機材の調子などの確認のため一時中断する。

②屋外展示ガイド冊子の改定・・・これまでに検討した内容を編集し、それを基に引き続き検討する。

【活動予定】

◎1月26日(土) 10:00~12:00 内容: 動物観察、屋外展示ガイド冊子改定など 場所: 生活実験工房

◎2月9日(土) 13:30~15:00 内容: 「わくわく探検隊」樹冠トレイルを歩こう!びわたんと共催 場所: 実習室2

◎2月23日(土) 10:00~12:00 内容: 動物観察、屋外展示ガイド冊子改定など 場所: 生活実験工房

★森が好きの人、植物や昆虫など生き物が好きの人、専門知識は不要です。はしかけ“森人”に参加しませんか

★参加を希望される方は 森人(もりひと) hashi-morihito@biwahaku.jp に連絡ください。



(23) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻達郎

米原高校地学部の4名と坂本先生(顧問: サポートメンバー)が、12月22日(土)に琵琶湖博物館で珪藻写真の写真撮影をしました。また、産出した珪藻化石に基づいて、縄文時代初期に姉川流域に存在した堰止め湖の古環境を復元すべく、必要な文献の収集とディスカッションを行いました。現在、日本藻類学会第43回大会(京都大学)でのポスター発表を準備しています。

他の会員は、遠隔地だったり受験を控えていたりすることもあり、特に活動の報告はありません。

3月までの活動の予定: 3月16日に京大で行われる日本藻類学会第43回大会でポスター発表予定です。米原高校地学部は既に発表を決めて要旨を準備中、他にも発表を検討している会員がいます。



SALON DE 湖流
L'ORIGINE DU MARIAGE

(24) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-salondekoryu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 戸田 孝

【活動報告】

■ 12月2日(日) 13:00~16:00 学習会

場所: 琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー 参加者: 4名(はしかけ3名 学芸員1名)

以下の3種の実験を試し、その結果を元に、湖水の物理に関わる現象や原理を説明するのにどのような方法が有効かということについて議論しました。

- ・2Lペットボトル2本を用いた「竜巻再現装置」
- ・回転する椅子と半分に切ったペットボトルを使って水が噴き出る様子を観察する実験
- ・100均で買った回転台に紙を固定して回しコリオリの力を確認する実験

【活動予定】

■ 1月27日(日) 13:30~ 学習会 場所: 実習室1

12月の活動では参加できる人が限られていたので、参加できなかった人にも実験を体験してもらい、それを元にさらに議論を進めて行く予定です。



【活動にあたって】

琵琶湖は、生活用水、農業用水としての役割のみならず、さらには景観の構成要素として重要な役割を果たしている。琵琶湖の水を支えているのは直接的な降雨水に加え、集水エリアからの地表水、地下水である。特に琵琶湖周辺の山地から湖に至る間で、様々なエリアにおいて、人々は、湧水、山水、川水など、さまざまな地表水、地下水と密接にかかわりあって暮らしてきた。そこには、そのかかわりあった風景と人とのつながりである「文化」をみる事が出来る。

古くから稲作の普及で農耕生活が定着し、また農民の居住地の移動が困難であった時代に土地を守り、生き抜くため、各集落で各家庭での生活用水、そして各田畑等への農業用水など、湧水を含め、山水、川水などの水を如何に使うかが最大の関心事であったであろう。つまり水は生活環境、自然環境において重要な役割を果たしてきたのだ。この水に育まれてきた暮らし「文化」の継承状況を調査し、先人たちの水への「想い」を発信し、記録として、また、他の地域との交流の一助となることを願うものである。

【活動内容】

湧水を含め名水と呼ばれる地域、地点を環境省HP、県下名水HP等よりリスト作成し、独自の湧水の実態調査表も作成し、調査日時、天気、水質測定値、場所由来、現地写真、湧水量、活用状況、データより独自の仮説を展開して行く。

【活動報告】

- ★2018, 10, 27 参加者 5 名 調査地域 湖西地域大津市北部 (3 か所)
- ★2018, 11, 7 参加者 6 名 調査地域 湖西地域大津市北部、高島市 (8 か所)
- ★2018, 11, 28 参加者 6 名 調査地域 湖西地域高島市朽木地区 (6 か所)
- ★2018, 12, 14 参加者 4 名 調査地域 湖西地域葛川坊村・朽木 (5 か所)

■湧水の実態調査の主な内容

・湧水の状況について調べる。①地底から湧き出ている。②岩盤・地層から滲み出している。③沢水からの集水。④井戸水(ポンプUP含む) ⑤水路、小川の一部など。

・用途について調べる。①は灌漑用途、②生活用途、③神事他、④秀、優、良、可などで見方をつける。また、名水として近隣住民、他府県民が飲料用として汲み帰っているのかの有無についても調べる。

★今回は、はしかけグループ登録後の初回投稿である。

10月以降12月までの行動内容を羅列したものである。次回よりは各調査地点の詳細について報告して行く予定です。

(グループ代表者: 中場)

(本稿の執筆者: 小篠)

3. 生活実験工房からのお知らせ

寒い冬から、少しずつ春の気配が感じられる頃になりました。本年度の生活実験工房の行事も残すところ2回となりましたが、工房内にて作業を行います。体験活動へのご参加をよろしくお願いいたします。

担当職員：下松 孝秀

【活動予定】

開催時間 10:00～12:00 場所：全日程とも生活実験工房

2月10日（日） わら細工

3月16日（土） 一年間のふりかえり

※一般参加者の受付は、9:30からです。

4. その他の事項

(1) メールアドレスとホームページアドレスの変更について

びわ博の情報システム変更にもなって、メールアドレスとホームページのURLが変更になりました。新しいメールアドレスは「***@biwahaku.jp」、ホームページは「https://www.biwahaku.jp/」です。なにか不備がありましたら、事務局までお問い合わせください。

(2) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス（各グループの報告欄に掲載）にご連絡ください。

(3) 名札（会員証）の写真について

名札（会員証）の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(4) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(5) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先（社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923）へ、速やかに連絡してください（各人で連絡）。

なお、手続きには、グループ担当者（学芸員）の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局（博物館事務学芸室）にも置いています。